

令和6年度飯島町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

水稻をはじめ、麦・大豆・そばは、担い手法人を中心とした機械化が進み、コストダウンが図られている。転作作物については、地域の特色を生かした取組みがされてきており、安定した生産ができることで産地の確立が期待できる。

しかし、農業経営者の高齢化とそれに伴う担い手、後継者不足にはますます拍車がかかっている。担い手法人や地域の担い手も経営規模の拡大には限界があり、今後の地域農業を担ってもらう新たな就農者や法人の後継者などの掘り起こしが必要である。

また、圃場整備により大型機械で作業可能な地域は農地の集積が進んでいるが、機械が入らない小さな圃場は作付けがされず、遊休農地となってしまう恐れがある。このような圃場もその特性を生かした作物の振興などを図り、農地を維持していく取組みをしなければならない。

その生産作物の販売面では、産地規模が小さいため、生産販売体制の整備や物流コストの削減、多様な販路開拓などによる販売力の強化とともに、水稻や土地利用型作物以外の園芸作物等の作付拡大により、農家の所得向上を図ることが課題である。また、水田活用の直接支払い交付金の5年水張ルールについて、農家への周知を図り、水張りを実施する農地、畑地化していく農地を検討していく必要がある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当町は水稻をはじめとする土地利用型作物が基盤となっているが、近年の情勢の変化に伴い、主食用米からの転換作物として高収益作物の導入および需要が見込まれる大豆の振興を図っていく。作業効率の向上・省力化を図るためにスマート農業への取り組み推進と農地利用調整による畑作物の団地化に取り組む。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田に畑作物を継続して作付けしている圃場を点検し、水田機能が保たれているか把握する。長年にわたり畑作物を作付けしている転作田を中心に、水田機能が低下している場合については、畑地化の検討を進めていく。

また、畑地化支援の活用のみならず地域の実情に合わせブロックローテーション体系の活用も検討していく。

【参考】令和5年度畑地化支援活用水田

対象水田	対象面積	内高収益作物	内畑作物
187 筆	20.7ha	4.7ha	16.0ha

4 作物ごとの取組方針等

1) 主食用米

需要に応じた生産に取り組むため、生産数量目安値を地区および農家へ提示していく。また、県や町の栽培基準による作付けを基本としながら、機械化一貫体制による省力化・低コスト化に取り組む。町営農センターおよび環境共生栽培普及会と協力して、安全・安心の環境共生米づくりを推進し、面積拡大と販路の拡大に取り組む。

(2) 備蓄米

水田活用米穀として、JA 上伊那からの提案に沿って生産を振興する。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

町内の酪農家が少なく、近隣市町村の酪農家の情報も乏しいことから、需要に応じた栽培を図る。

イ 米粉用米 取組なし

ウ 新市場開拓用米 取組なし

エ WCS 用稲

町内の酪農家が少なく、近隣市町村の酪農家の情報も乏しいことから、需要に応じた栽培を図る。

オ 加工用米

水田活用米穀として、JA 上伊那からの提案に沿い、加工用米の生産を振興するため、取組み者に対して助成を行う。

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦については、販売価格が安く、大幅な拡大が見込めないが、転作作物として位置付けをし、団地化作物として推進する。収益力・生産力の向上として団地化、利用集積の取組みに対し助成を行う。

大豆については、今後の需要の見込みが高いとされる作物として、団地化・利用集積に取り組み生産性の向上を進め、水稻からの転作作物として振興作物に位置づけ拡大を図る。また、種子大豆の取組を進め、拡大を図る。

生産性向上対策として、ブロックローテーション・ほ場の団地化（規模拡大交付金の面的集積要件を準用 1 ha 以上、中山間地においては 50a 以上）・スマート農業機器の活用（ドローン、ラジコン草刈機、自動運転トラクター等）・たい肥の施用（10a あたり概ね 1 t 以上）・害虫防除（2 回以上）に取り組んだ場合に助成する。

飼料作物については、作業委託等により簡略化に取り組めること、また転作品目として推進に努める。

(5) そば、なたね

そばについては、計画生産と種子そばの生産地として、産地のブランド化の推進を図る。乾燥調整施設の共同利用を行い、品質の均一化を図り、一括有利販売を展開することとする。作業委託等により簡略化に取り組めることや、転作品目としての優位性を基に面積拡大に努める。収益力・生産性の向上として団地化、利用集積の取組みに対し助成を行う。また、収益を高める取組みとして、麦や夏そば収穫後に秋そばの二毛作に取り組む。

(6) 地力増進作物

有機栽培や高収益作物への転換・導入に向けたソルガムやレンゲの作付を推進し、次期作の収量および品質の向上への取り組みを進める。

(7) 高収益作物

農業者の所得増大に向け、産地交付金を有効活用しながら、高収益作物であるアスパラガス、ねぎ、ブロッコリー、きゅうり、スイカ、とうもろこし、キャベツ（業務用・加工用含む）、さつまいも、アルストロメリア、トルコギキョウ、ユリ、栗、柿、桃、りんご、梨、ぶどうを地域振興作物に位置付け、作付けを推進することで特色ある産地づくりを進める。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位：ha)

作物等		前年度作付面積等	当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
			うち 二毛作	うち 二毛作	うち 二毛作	うち 二毛作
主食用米		457.22		461.24	458.00	
備蓄米		0.00		0.00	0.00	
飼料用米		0.00		3.64	3.60	
米粉用米		0.00		0.00	0.00	
新市場開拓用米		0.00		0.00	0.00	
WCS 用稲		12.92		12.73	12.70	
加工用米		7.12		2.89	3.30	
麦		27.35	5.38	43.00	40.00	5.00
大豆		18.56	2.97	14.11	16.00	3.00
飼料作物		0.24		0.24	0.24	
	・子実用とうもろこし	0.00		0.00	0.00	
そば		97.30	46.78	92.45	93.50	48.00
なたね		0.00		0.00	0.00	
地力増進作物		0.00		0.00	0.00	
高収益作物		11.79		12.34	12.45	
	・野菜	8.35		9.09	9.00	
	・花き・花木	3.19		3.00	3.20	
	・果樹	0.25		0.25	0.25	
	・その他の高収益作物	0.00		0.00	0.00	
その他		0.00		0.00	0.00	
畑地化(累計値)		20.67		20.81	20.81	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦・大豆・WCS用稲・そば（基幹作）	戦略作物およびそばの生産性向上への取組助成	団地化面積（ha）	令和5年度 67.95ha	令和6年度 70.00ha 令和7年度 70.00ha 令和8年度 70.00ha
2	そば（基幹作）	そば（基幹作）への助成 （地域の取組に応じた配分）	作付面積（ha）	令和5年度 97.25ha	令和6年度 92.50ha 令和7年度 93.00ha 令和8年度 93.50ha
3	そば（二毛作）	そば（二毛作）への助成	作付面積（ha）	令和5年度 46.74ha	令和6年度 48.00ha 令和7年度 48.00ha 令和8年度 48.00ha
4	大豆（基幹作）	大豆（基幹作）への助成	作付面積（ha）	令和5年度 18.56ha	令和6年度 16.00ha 令和7年度 16.00ha 令和8年度 16.00ha
5	【野菜】 きゅうり・アスパラガス・ねぎ・スイカ・ブロッコリー・とうもろこし・キャベツ（加工用・業務用含む）・さつまいも 【花き】 ユリ・アルストロメリア・トルコギキョウ 【果樹】 栗・柿・桃・ぶどう・りんご・梨 ※各品目全て基幹作	高収益作物（野菜・花き・果樹）への助成	作付面積（ha）	【野菜】 令和5年度 8.35ha 【花き】 令和5年度 3.19ha 【果樹】 令和5年度 0.25ha	【野菜】 令和6年度 9.00ha 令和7年度 9.00ha 令和8年度 9.00ha 【花き】 令和6年度 3.20ha 令和7年度 3.20ha 令和8年度 3.20ha 【果樹】 令和6年度 0.25ha 令和7年度 0.25ha 令和8年度 0.25ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。